

Vol.3 「サピエンス全史」

読後感想 < 上巻編 >

■ 課題図書の詳細

サピエンス全史 (上)

文明の構造と人類の幸福

- 著者：ユヴァル・ノア・ハラリ
- 出版社：河出書房新社
- 定価：1900円+税

2021年3月、エルビス越前から「ティール組織」に続く第2弾として提示された課題図書は「サピエンス全史」。世界的なベストセラー本であり、2019年NHKでもこの本の著者のインタビュー番組が放映された。

ひと言



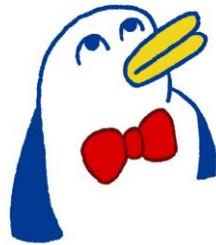
学びのジョナサン

今回は「サピエンス全史」上巻の読后感想です。

世界的なベストセラー本でありながら、エルビス越前以外のメンバーは読んでませんでした。歴史書は興味がないとなかなか手にとることはありません。メンバーは、「世界的なベストセラー」であることだけをきっかけに、読み始めたという経緯です。すこし消極的なスタートでしたが...

MEMBER

今回の
参加メンバー



M氏



S氏



エルビス越前



学びのジョナサン



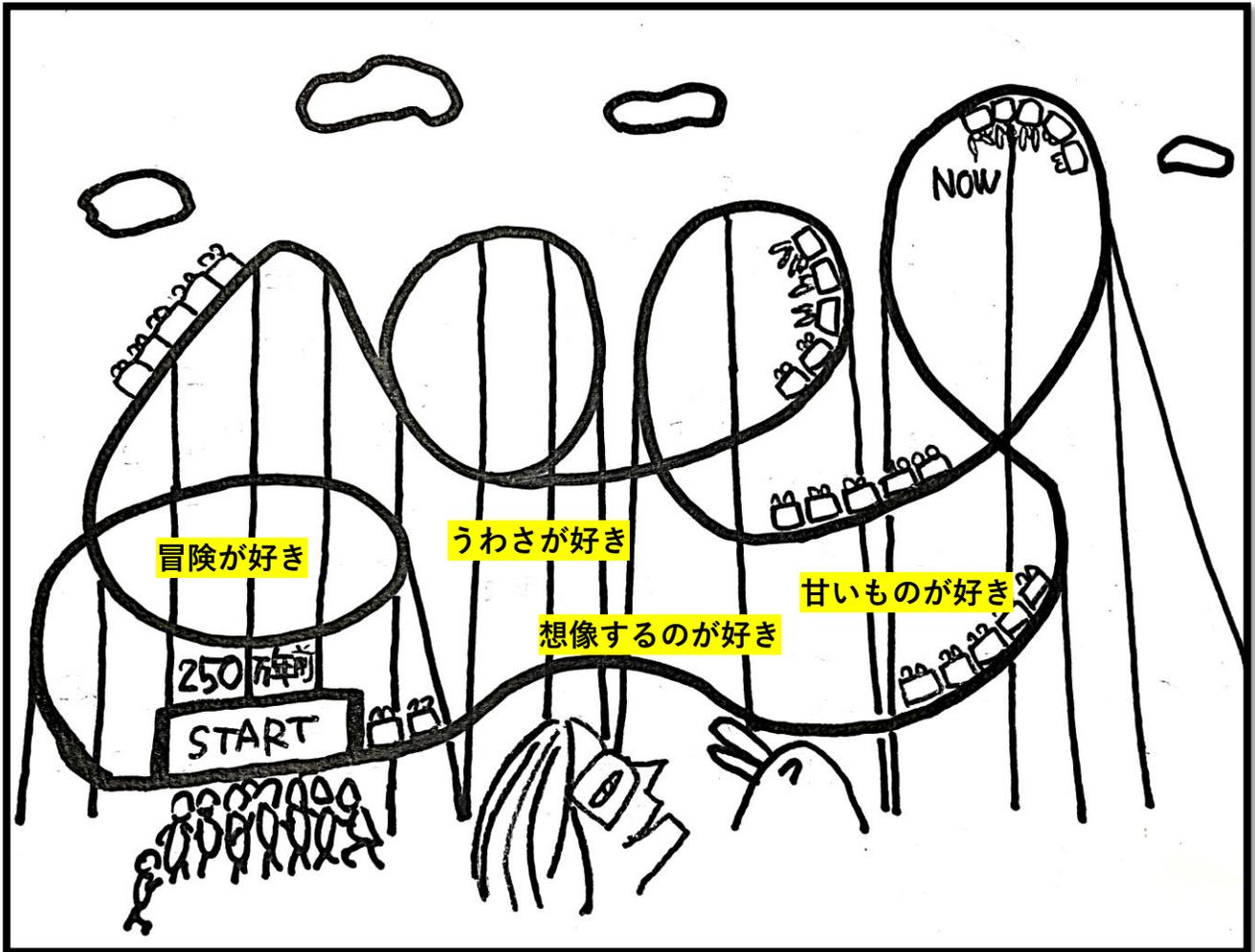
K氏

サピエンス全史を読んで



なるほど、なるほど、なるほど
そうだったのか！

ジェットコースター的なすさまじいアップダウンで、
250万年の時空間を行ったり来たり。飽きさせない本だ。



私たちの「正体」がわかるすごい本だ。
「うわさが好き」「甘いものが好き」
「想像するのが好き」「冒険が好き」など
私たちによくある意識・行動は、
もともと私たち人類にずっとずっと昔から
備わっていた意識・行動らしい。

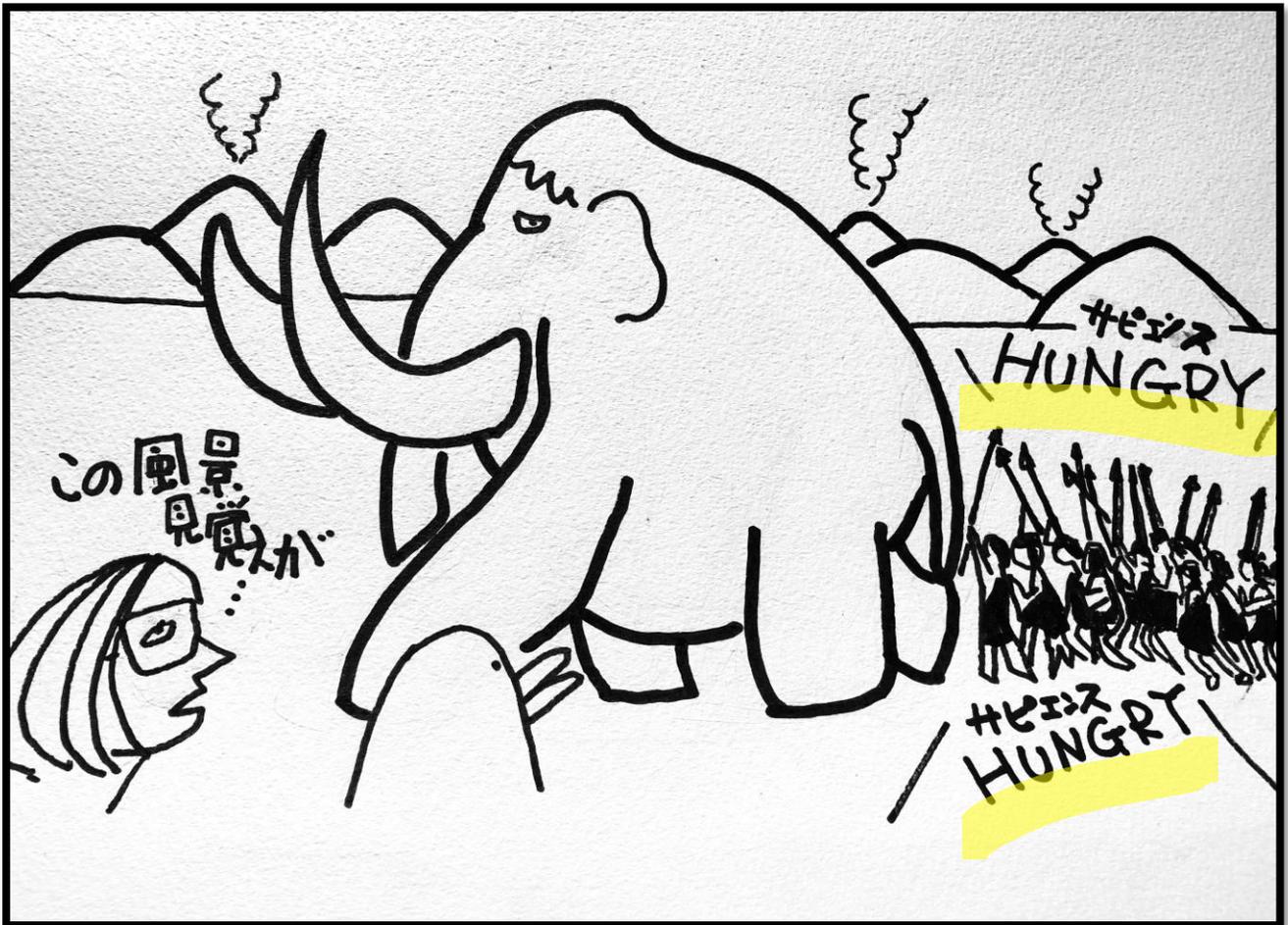


サピエンス全史を読んで



自分の無知を痛感!
「人類」について知らないことが
いっぱい!間違っていることも。

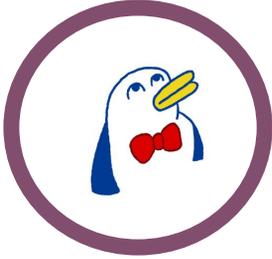
わたしたちの祖先は、ネアンデルタール人じゃない。
サピエンスなんですね。



マンモスがいなくなったのは
氷河期などの気候変動が原因という説もあるが
それ以上にサピエンスが大きな原因だと
この本では言っている。私たちはサピエンスは
どうも大変なことをしでかしたらしい。



サピエンス全史を読んで



いろんなことの
「始まり」がわかる。

「ワンちゃんとの付き合い」は1万3千年前から始まった。
それを知ると本当に「愛おしい存在」になる。



どうも『不安』というものは、1万2千年前から始まったようだ。気ままな狩猟採集生活から、農耕定住生活に移行すると、豊かな作物には恵まれるが、天候不良で不作もあり、そこから「未来への不安」というものが生じるようになったという。『不安』誕生の話...面白いね。



サピエンス全史を読んで



謎がとけた！
なぜ、世界中にたくさんの
「神話」があるのか。

神話は、何千何万という人々を結びつける「接着剤」だった。



「神話づくり」こそがサピエンスの特技だった。
そして想像上の物事を信じる、信じさせることで
全世界（地球）を征服していった。
この本の面白さは、こうした「目からうろこ」の
発見を提示してくれることだ。

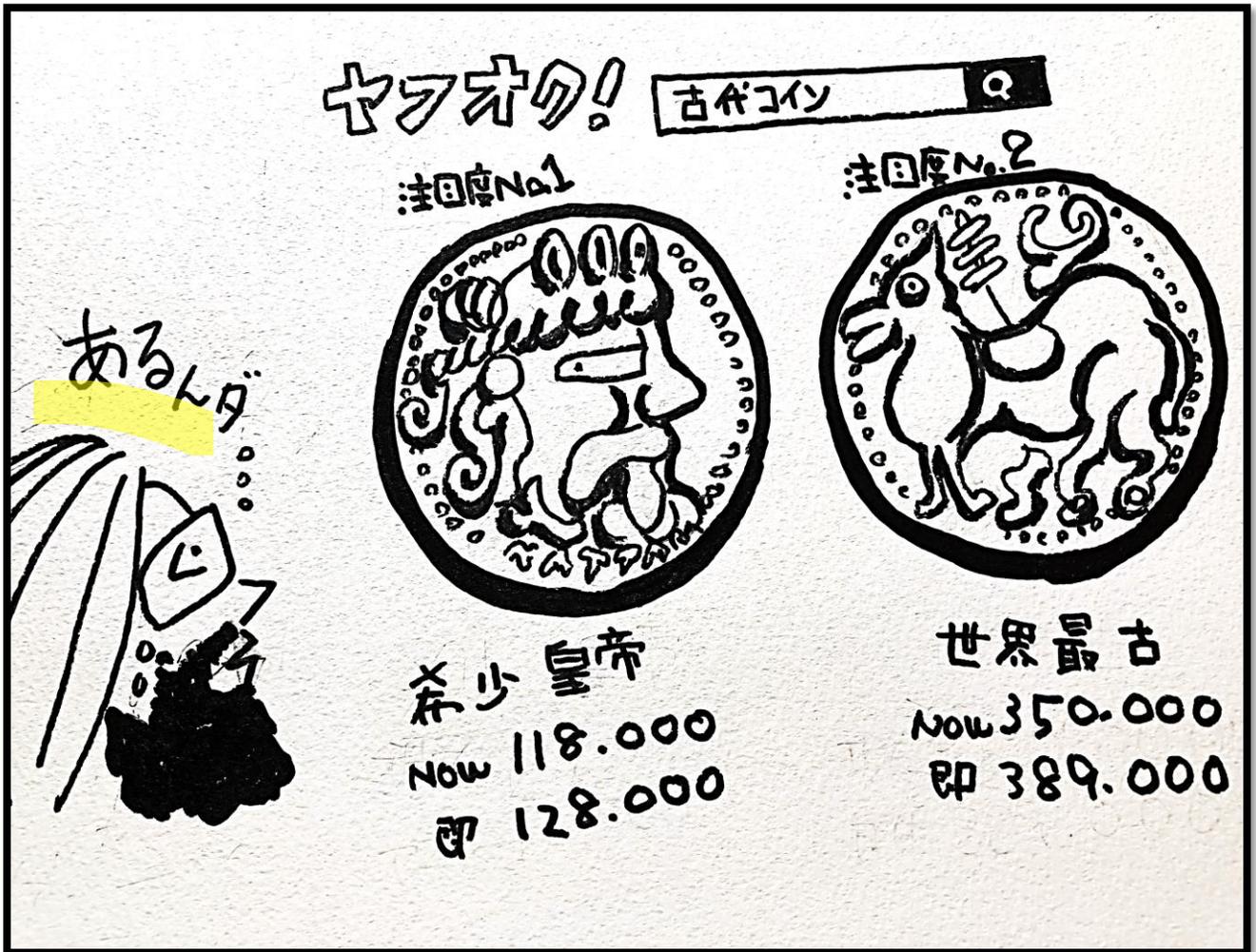


サピエンス全史を読んで



お金のことを
しっかり考えてみようと思った。

そもそもお金って、何なの？
しかしヤフオクにある「古代コイン」って本物かな?!



貨幣は、人類が生んだ、世界征服の「最強」の
ツールらしい。「貨幣理論」など経済学から勉強
しようとするとう頭に入らないが、この本のような
視点で解説してくれると、よーくわかる。
教え方って、本当に大切だ。



サピエンス全史を読んで



古代ローマをテーマした
映画が見たくなった。

古代にタイムスリップしたら、どんなことを感じるだろう？



ローマ帝国など、
帝国がどのようにしてできるのか...
歴史の「からくり」が、この本から見えてくる。
そして、それを実感する方法がある。
それは「映画」をみるといい。

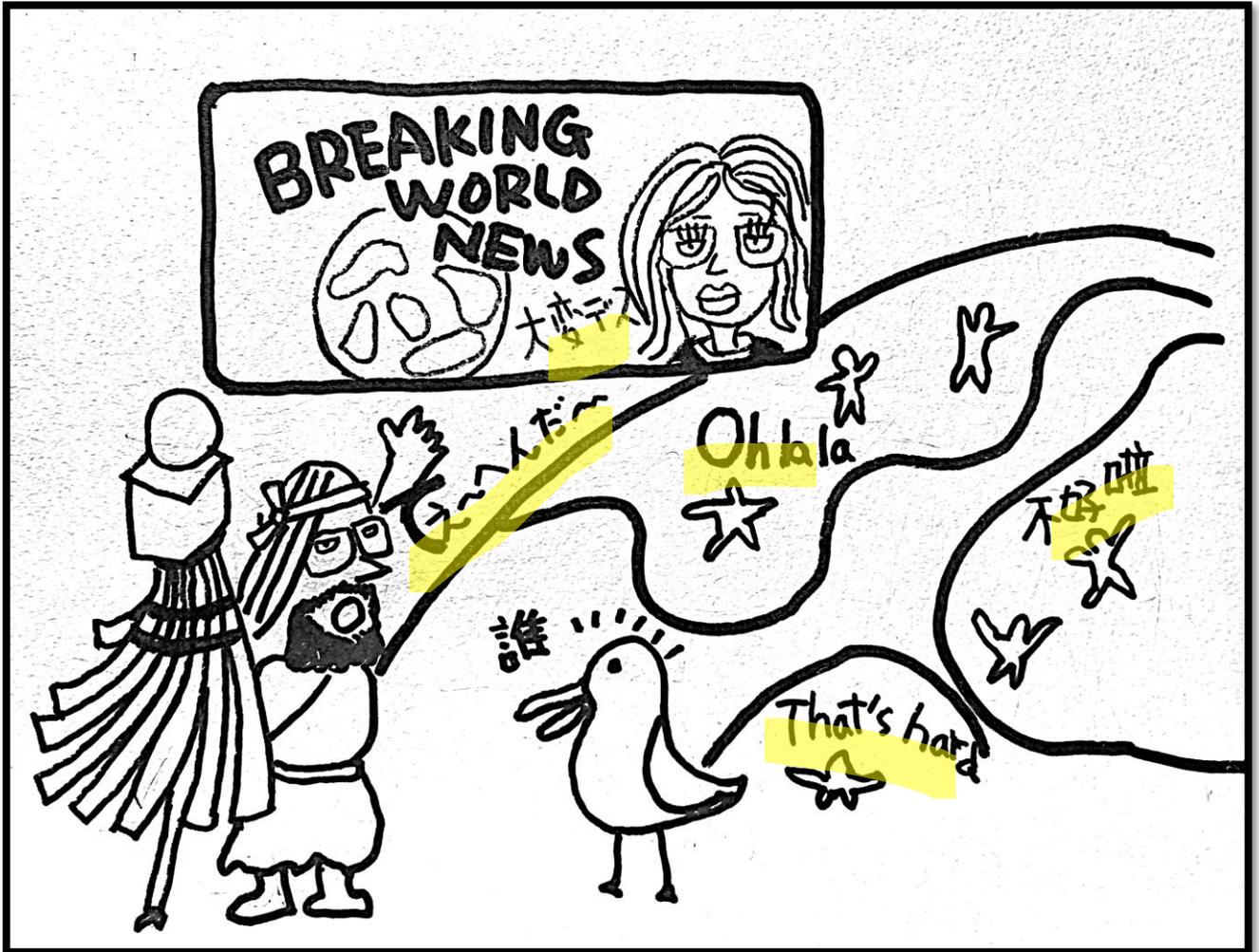


サピエンス全史を読んで



世界の国々、人々が
「ご近所さん」って感覚になった。

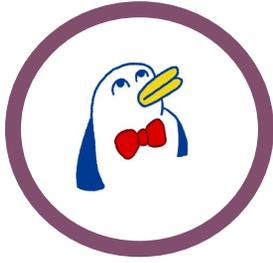
ワールドニュースへの理解力がぐーんとあがった！



この本の面白さは、物を見る視点。
突然、宇宙から地球を見るといった具合。
その視点から見ると、地球には「世界帝国」なる
ものができつつあるという。地球上の多くの人々
が、言語こそ違うが、同じ概念や価値観でもの
を見ている。世界は統一化にきているらしい。

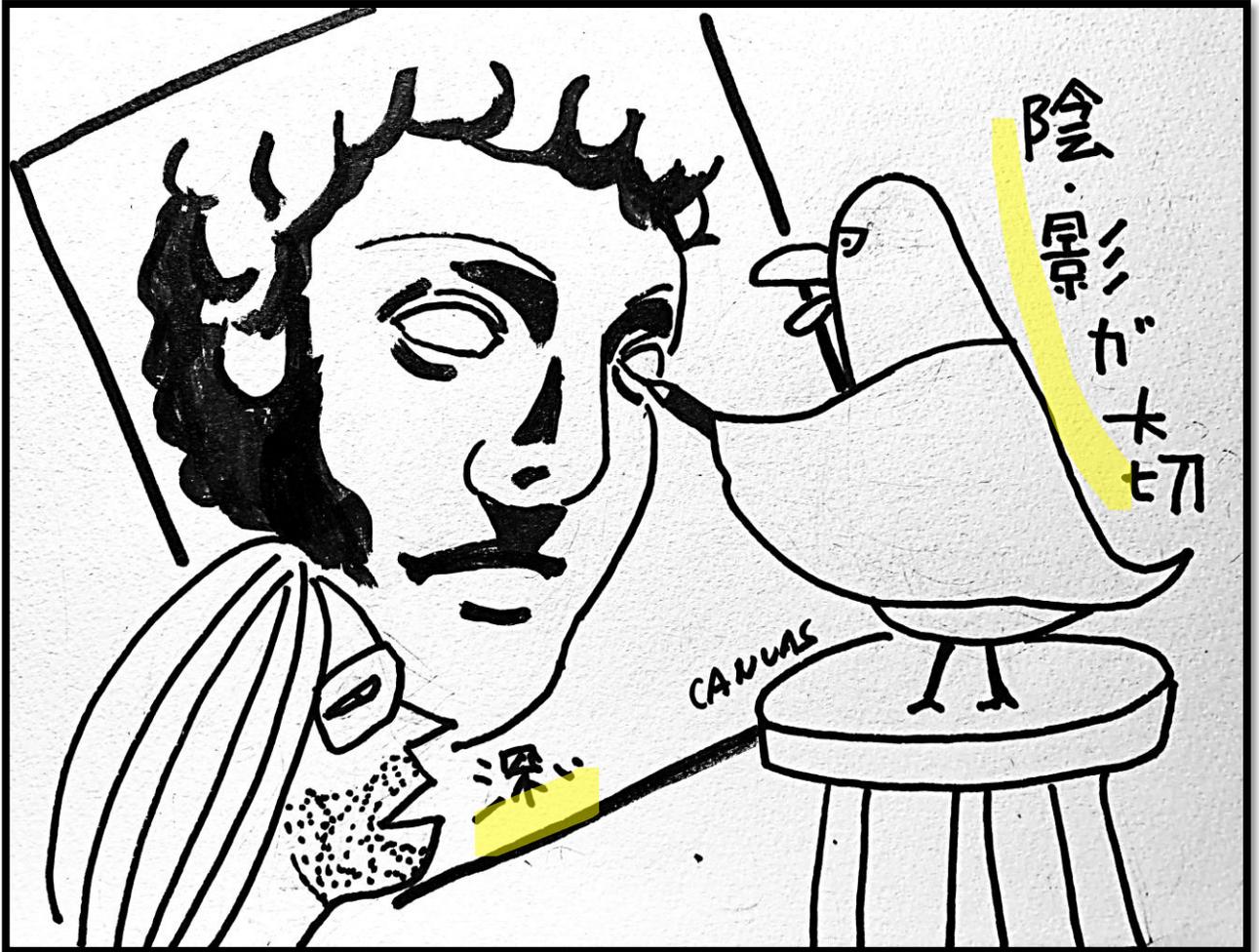


サピエンス全史を読んで



歴史を学ぶことは
ごまかされないことだと思う。

いろいろな角度から見ていくと「真実」が見えてくる。



歴史の中で、矛盾していることがたくさんある。
「自由」と「平等」も矛盾している。しかし、
この「矛盾」こそが、考える力となり文化を
つくる原動力になるという。人のいろんな見解
に耳を傾けることは、進歩には欠かせないこと
がわかる。



第3回NATTARA読書会 終わりにあたって



「サピエンス全史」(上)の
誌上読書会はいかがでしたか。

メンバーからは、この本は「すごい」、「面白い」
という声が多く、大好評でした。

ただ、読后感想会では、「面白かったけどあまり記憶
に残っていない」という声も多かったのです。

「なぜ」だろうか、メンバーと考えました。
通常歴史の本は、時系列的に解説していきますが、
この本は、過去と現在を行ったり来たりします。
面白い話が次々やって来ては消え、を繰り返すのです。

その結果、時代認識が全く追いついていけなく、
知識として整理・蓄積することができなかったのでは
ないか、という結論でした。

だから、こうした形でまとめることは、
少なくとも意味があることと思いました。

ここまでご覧いただきありがとうございました。
次回は、「サピエンス全史」(下)です。
よろしくお願いいたします。



読書会メンバーを募集します

Info@nattara.netまでご連絡ください。

メンバーご希望の方は、キャラクターとして登場してもらいます。そして、
感じたことをメールで送っていただければ、事務局でこの「NATTARA読書会」
報告として編集いたします。ご応募、お待ちしております。